

2024年2月22日

監査役会実効性評価の概要について

花王株式会社

監査役会は、当社グループの健全で持続的な成長とステークホルダーからの信頼に応えるガバナンスを確立するために、監査活動を行っています。監査役会は、監査活動の実効性を継続的に向上させることを目的に、監査役会実効性評価を毎年実施しています。

1. 概要

監査役会は、重点監査項目を中心に監査を実施し、その活動について、多角的・客観的な視点から実効性評価を行います。実効性評価に際しては、各監査役の自己評価（評点・記述式）のみならず、関係者からの意見を収集し、良かった点や課題を抽出して、次期監査活動の方針、重点監査項目や計画に反映します。

また、評価方法や評価項目については、社会動向やステークホルダーの要請等を踏まえて、見直しを行っています。

2. 評価方法

多角的で客観的な視点が確保できるように、当期は監査役だけでなく、社外取締役と役付執行役員にもアンケート（記述式）を送付し、代表取締役とは意見交換を実施しました。会計監査人、内部監査部門である経営監査室とは、インタビューを行い、参考にしています。

3. 評価項目

当期の評価項目は、以下のとおりです。重点監査項目に基づき評価項目を設定し、それぞれの評価視点を合わせるために、小項目を設定しました。

- ・ 監査役及び監査役会の構成と機能
- ・ 取締役の機能を監督する体制
- ・ 経営戦略の実行状況並びにリスク対応
- ・ グループガバナンスの実効性向上（グループ会社監査役／会計監査人／経営監査室）
- ・ 内部統制体制の整備並びに運用状況
- ・ 情報開示の充実

4. 実効性評価結果、抽出された課題

監査役会で議論した結果、全体として「有効に機能している」という評価に至りました。実効性評価の主な評価結果と抽出された課題等は、以下のとおりです。

- ・ 監査役会は、論点の設定が明確で、自由闊達で忌憚のない意見交換の場が醸成されています。監査役会の議題にとらわれず、中長期の課題についてもフリーディスカッション形式で、適宜意見交換を行っています。
- ・ 経営戦略の実行状況では、事業別 ROIC の活用や構造改革の浸透の度合いを現場で把握・検証し、その内容を提言にまとめて取締役と共有しました。なお、事業別 ROIC については継続的に確認していきます。
- ・ リスク対応では、個々のコーポレートリスクの蓋然性と影響度をバランス良く検討し、優先順位をつけてリスクマネジメント体制が構築されていることを確認しました。
- ・ グループガバナンスの実効性向上では、国内の重要な子会社で監査役実効性評価を実施しています。また、海外グループ会社では、現地の特性と固有リスクに応じた内部統制に対する監査の実効性向上の必要性を認識しました。
- ・ 三様監査（監査役／会計監査人／経営監査室）については、さらなる連携強化のために、監査計画や課題の共有が必要と認識しました。

実効性評価で抽出した課題は、実効性をより高めるために、次期監査活動や重点監査項目に反映させます。さらに、それらの取り組みを取締役会と多様な視点から議論することで連携を深め、ステークホルダーからの信頼に応える経営基盤の強化と企業価値の向上に努めていきます。

以上